

2022 年度金沢大学「人文社会科学における法（法政基礎論 B）」（人社学域 GS 科目）

小テスト解答（2023 年 1 月 10 WebClass で実施）

足立英彦（法理学）出題分

1. 次の選択肢のうち、基礎法学ではないものを一つ選べ。

- (a) 法制史学
- (b) 外国法学
- (c) 憲法学
- (d) 法理学

解答 (c)

解説 憲法学は実定法学に属します。

2. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。

- (a) 法理学は「法とは何か？」という問と取り組む。
- (b) 法理学の対象は、時代や場所によって異なる、法の本質的な部分である。
- (c) 法理学は法学の一分野であり、法哲学は哲学の一分野であるので、両者は全く違った学問分野である。
- (d) 現在通用している法を実定法という。

解答 (c)

解説 法理学は法哲学ともいいます。両者に違いはありません。法理学＝法哲学は法学と哲学の両方に属します。

3. 義務様相を含む文の意味内容をなんと呼ぶか。

- (a) 命令
- (b) 規範
- (c) 指令
- (d) 依頼

解答 (b)

解説 規範は規範文（義務様相を含む文）の意味内容。

4. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。

- (a) 「必ず雨が降る」が真ならば、「雨が降る可能性がある」も真である。
- (b) 「雨が降る可能性がある」が真ならば、「雨が降らない可能性がある」も真である。
- (c) この世界から到達可能なすべての可能世界で「雨が降る」が真ということと、この世界において「必ず雨が降る」が真であることは同じことである。
- (d) この世界で「必ず雨が降る」が真であれば、この世界で「雨が降る」も真である。

解答 (b)

解説 「雨が降る」を R とする。

(a) 正しい。 $\Box R$ は $\Diamond R$ を含意する*¹。

(b) 誤り。 $\Diamond R$ と $\Diamond\neg R$ は互いに小反対の関係にあるので、一方が真であることから他方の真理値は判明しない。

(c) 正しい。

(d) 正しい。

この問題の正答率は 51% で、この小テストの問題の中で一番低い正答率でした。(c) を選択した方多かったのですが、(c) は様相文を様相を含まない文に言い換えることができるという基本的な知識を問うものです。

5. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。

(a) 「税を払わなければならない」が真なら、「税を払うことが許されている」も真である。

(b) 「税を払わなければならない」が真であっても、税を払わない人はいる。

(c) 「駐車が許されている」と「駐車をしないことが義務づけられていない」は同じことである。

(d) 「宗教を信じる自由がない」(宗教を信じることに不自由である) が真であるならば、「宗教を信じないことが義務づけられている」は真である。

解答 (d)

解説

(a) 正しい。「税を払わなければならない」は、「税を払うことが許されている」を含意する。

(b) 正しい。規範は現実世界の出来事を記述していない。

(c) 正しい。

(d) 誤り。「宗教を信じる自由がない」とは、「宗教を信じることを義務づけられている、または、宗教を信じないことを義務づけられている」ことである。どちらが義務づけられているかは分からない。

6. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。

(a) 自然科学と規範科学は、様相を含む文を対象とするという共通点がある。

(b) 自然科学が対象とする文に含まれる様相は真理様相である。

(c) 規範科学が対象とする文に含まれる様相は義務様相である。

(d) 仮説が様相を含む文である場合、実験や観察によってその仮説を否定することはできない。

解答 (d)

解説

*¹ この授業では \Box , \Diamond を真理様相と呼び、現実世界における真理様相を含む文は現実世界のことにも言及している(到達可能性に反射性(reflexivity)を認める)ことを前提としました。したがって、現実世界から到達可能な世界が常に存在するため、 $\Box R$ は $\Diamond R$ を含意します。現実世界から到達可能な世界がなければ、 $\Box R$ は $\Diamond R$ を含意しません。

- (a) 正しい。
- (b) 正しい。
- (c) 正しい。
- (d) 自然科学の仮説に含まれる様相は真理様相であり、したがってその仮説は現実世界についても言及しているので、実験や観察によってそれとは異なる現実が生じることを示せたならば、その仮説は否定されたことになる。

7. 作為義務と不作為義務の間にはどのような関係があるか。

- (a) 否定
- (b) 反対
- (c) 小反対
- (d) 含意

解答 (b)

解説

- (a) 一方が真なら他方は偽、一方が偽なら他方は真。
- (b) 一方が真なら他方は偽、一方が偽の場合、他方の真偽は不明。
- (c) 一方が偽なら他方は真、一方が真の場合、他方の真偽は不明。
- (d) A が B を含意する場合、A 真なら B 真、A 偽なら B 真偽不明、B 真なら A 真偽不明、B 偽なら A 偽。

8. 「自転車通学をすることが許されている」が偽である場合、以下のどの文が真か？

- (a) 「自転車通学をすることが義務づけられている。」
- (b) 「自転車通学をすることが禁止されている。」
- (c) 「自転車通学をしないことが許されていない。」
- (d) 「自転車通学の自由がある。」

解答 (b)

解説

- (a) 偽。「自転車通学をすることが義務づけられている」は「自転車通学をすることが許されている」を含意する。後者が偽なら前者も偽。
- (b) 真。「自転車通学をすることが許されている」(PV)と「自転車通学をすることが禁止されている」($O-V$)は互いに否定の関係。一方が偽なら他方は真。
- (c) 偽。「自転車通学をしないことが許されていない」は「自転車通学をすることが義務づけられている」と同じ意味で、「自転車通学をすることが許されている」を含意する。後者が偽なら前者も偽。
- (d) 偽。「自転車通学の自由がある」は「自転車通学をすることが許されている」を含意する。後者が偽なら前者も偽。

9. 次の選択肢のうち、正しいものを一つ選べ。

- (a) 宗教を信じるのが義務づけられていない場合、宗教を信じることは義務づけられている。
- (b) 宗教を信じないのが義務づけられていることと、宗教を信じるのが許されていないこととは、同じことである。
- (c) 宗教を信じないのが許されている場合、宗教を信じることは許されている。
- (d) 宗教を信じないのが許されていない場合、宗教を信じないのが義務づけられている。

解答 (b)

解説

- (a) 「宗教を信じるのが義務づけられていない」 = 「宗教を信じないのが許されている」は「宗教を信じるのが義務づけられている」と否定の関係。
- (b) 正しい。
- (c) 両者は小反対の関係。
- (d) 両者は反対の関係。「宗教を信じないのが許されていない」は「宗教を信じるのが義務づけられている」と同じ意味。

10. 以下の空欄に入る単語（漢字 4 文字）を入力しなさい。

「正義とは何か」という問に対する多様な答えを（ a ）といい、様々な（ a ）が共有する観念を（ b ）という。

解答

- (a) 正義構想
- (b) 正義概念

11. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。

- (a) アリストテレスによれば、狭義の正義は合法性を意味し、広義の正義は「公正なこと」（イソス）を意味する。後者の「公正なこと」には、公正という意味の他に「等しいこと・平等」という意味がある。
- (b) アリストテレスの狭義の正義は、平均的正義と分配的正義に分けることができる。
- (c) アリストテレスの平均的正義は、交換的正義と匡（矯）正的正義に分けることができる。
- (d) アリストテレスの分配的正義は、同じ価値を持つ人に同じ量のものを分配することを求める。

解答 (a)

解説

- (a) 「狭義」と「広義」が逆。
- (b) 正しい。
- (c) 正しい。
- (d) 正しい。

12. 次の選択肢のうち、正しいものを一つ選べ。

- (a) 分配的正義を実現するためには、無条件の一般規範を定め、それに従って判断することが必要である。
- (b) 基本権（基本的人権）を制限する法律は、その制限の目的が正当であり、さらに、その目的を実現するための手段も正当である事が必要である。
- (c) 基本権を制限する法律が定める法的効果は、その法律が実現しようとしている目的にとって「必要」でなければならない。
- (d) 法律が定める効果は、その法律の目的のために真に「適合的」でなければならない。

解答 (b)

解説

- (a) 正しくは「条件つき一般規範」。
- (b) 正しい。
- (c) 正しくは「適合的」。
- (d) 正しくは「必要」。

13. この授業（12月27日、1月10日）の感想（納得した点、驚いた点、疑問に思う点、難しく理解できなかった点など）や改善提案等を記入して下さい。（どのような内容でも、何か意味のある文が記入されていれば正解とします。）（1点）

回答 概ね、一回目の「規範について」の内容は難しく、二回目の「正義について」の内容はよく分かった、というご意見が多かったです。具体的には以下のような記入がありました。今後の改善に役立てたいと思います。

- 様相の相互関係（作為義務、不作為義務、作為許可、不作為許可、自由、不自由）の関係を理解することが難しかった。
- 真理様相と義務様相の違いが理解できなかった。
- 可能世界や到達可能性の概念を理解できなかった。
- 高校数学で習った論理や集合の知識が役に立った。
- GS科目「論理学と数学の基礎」の内容と同じだったので驚いた。

参考情報（2023年1月12日現在）

● 小テスト結果

履修登録数	受験者数	平均点（25点満点）
210	201	21.6